

安心して子どもを産める高梁市に

巨瀬小学校 6年 三尾ひより  
6年 網島佳歩

高梁市では、1年間に生まれる赤ちゃんの数が200人もいないと聞いています。私たちの学年は市内に230人くらいいるようなので、この12年間で30人くらい減っています。

もしかしたら、病院がなくて産めないのかもしれないと思い調べてみると、高梁市では赤ちゃんが生まれそうときに救急車がかけつけるサポートがあったり、赤ちゃんが生まれたら保健師が家庭訪問に来てくれたりするそうです。

だから、高梁市にも赤ちゃんを産むことができる病院があれば、もっと安心して子どもを産み育てられると思います。そんな高梁市になれば、子どもがたくさん増えて、もっと豊かになると思います。

そこで、高梁市内に子どもを産むことができる病院ができないでしょうか。

感想 三尾ひより

質問に丁寧に答えてくれて嬉しかったです。これからも地域の行事に参加し、みんなが笑顔で高梁市に住めるように努力したいと思います。

高梁市をもっと元気に

落合小学校 6年 野口優衣  
6年 平松凧彩

落合町のふれあい公園では遊具で楽しく遊ぶことができ、高梁市図書館ではゆっくりと読書ができます。

このような場所が増えると、高梁市に住む人たちの楽しみも増え、もっと元氣な町になると思います。

そのために、小学生などが自由に使えるスポーツ施設ができるいいと思います。屋根付きの広場に野球やテニスなどのスポーツ道具を用意することで、思いつきり体を動かすことができ、スポーツが好きな子どもたちも増えると思います。

また、お年寄りから子どもまでみんながゆっくり過ごすことができるリラクゼーション施設があれば、多くの人と交流ができ、高梁市の人々の心が豊かになっていくと思います。高梁市が元気に、そして住み続けたいふるさとなるために、どんなことを考えていますか。

感想 野口優衣

議会はとても真剣な空気で、座っているだけでも緊張しました。これからもより良い高梁市をつくるために頑張ってください。

近藤隆則 市長

分娩は、医療スタッフが365日24時間いつでもサポートできる体制が必要で、そのスタッフの確保が課題となっています。それに加え、高梁市では他の診療科の先生の確保も課題となっているため、将来の医療方針を明確にする「高梁市医療計画」を立てる準備を進めており、分娩施設についてもこの計画の中で検討していこうと考えています。

また、市では妊娠期から子育て期まできめ細かいサポートをしています。その1つとして、「ママサポート119」を平成27年度から始めています。これはお産が急に始まるなど緊急の場合、あらかじめ登録しておいた分娩施設へ救急車が運んでくれるものです。この他にも、助産師や保健師による訪問や電話でのサポートなども行っており、妊娠期から子育て期まで安心して過ごすことができる体制を整えています。

感想 網島佳歩

「ママサポート119」があることが分かりました。これからも高梁市に住み続けて、もっと明るい町になるのを見たいです。

小田幸伸 教育長

落合ふれあい公園や高梁市図書館も子どもからお年寄りまでが楽しく、ゆっくりと過ごすことができるように整備したものです。市内にはスポーツ施設が18カ所あり、市内外問わず年間約23万人が練習や試合で使用しています。

しかし、古い施設が多く老朽化しています。提案のあった屋根付きの広場ですが、建設や維持管理に多くの費用がかかるため、新しく整備する計画はありません。今あるスポーツ施設を、修繕や改修をしながら活用していきたいと思っています。

近藤隆則 市長

リラクゼーション施設を市で整備することは難しいかもしれませんが、閉館している「旧ゆらら」を活用し、新しく営業ができるように企業などから募集を行う予定です。その中で、リラクゼーション施設の提案の可能性もあるので、内容をよく見て検討したいと思っています。

感想 平松凧彩

議会でリラクゼーション施設について質問しましたが、いつかみんながくつろげるような施設ができるように願っています。

防犯灯の設置について

福地小学校 6年 宮守一輝  
5年 杉浦正汰郎

福地には防犯灯がなく、夜になると町中が暗やみに包まれるため、ホテルがよく見えます。

しかし、中学生になり自転車通学するようになると、防犯灯のない暗い中の下校は怖くて不安です。

広報たかはし9月号に、「犯罪を未然に防ぐため、公共施設の点検や施設内の防犯灯や防犯カメラの設置に努めていきます」と書かれていました。公共施設はもちろんですが、道沿いにも防犯灯を設置してほしいです。

また、防犯灯はホテルが飛び交う時間帯にはタイマーで消える仕掛けにすればいいと思います。防犯灯の形もホテルの形にすれば、福地に合った防犯灯になると思います。このように、ホテルに優しい防犯灯のある、安心・安全な福地の実現をお願いします。

感想 宮守一輝

僕たちの意見が受け入れられて嬉しかったです。安全タスキやライトを使って、自分の安全を守りたいと思います。

小田 幸伸 教育長



小田 幸伸 教育長



近藤 隆則 市長



宮守 一輝 議員 (福地小学校)



杉浦 正汰郎 議員 (福地小学校)



三尾 ひより 議員 (巨瀬小学校)



網島 佳歩 議員 (巨瀬小学校)



野口 優衣 議員 (落合小学校)



平松 凧彩 議員 (落合小学校)

近藤隆則 市長

自転車や歩行者を事故や犯罪から守る街灯を「防犯灯」と呼んでいます。この防犯灯は、その地域に暮らす皆さんの安心・安全を守るためのものですが、町内会など地域の人たちが設置しており、市はその費用の一部を助成しています。

このように、地域の皆さんと協力しながら安全の確保を図りますが、明るいうちの下校、ヘルメットの着用、夜光タスキをつけるなど、自分で身を守る習慣もつけていただきたいです。

また、タイマー付きのホテル型防犯灯は地域のイメージアップにつながりますが、ホテルには人工的な照明が悪影響を与えると言われていいます。防犯灯のランプの種類や色、照明がホテルや生息地にあたらないような工夫も必要です。

ホテルと人の安全を守る防犯灯をつくるために、これからも皆さんや学校、地域と一緒に考えていきたいと思っています。

感想 杉浦正汰郎

ホテル型の防犯灯が実際にあることを知って、僕たちのアイデアはいいなと思いました。ホテル型防犯灯の設置を楽しみにしています。